



# 五小だより

学校教育目標  
ともに学びあい、心豊かにたくましく生きる子どもの育成  
～互いに認め合い・つながりあう～

2022(令和4)年5月12日  
第2号  
香芝市立五位堂小学校 校長室発行

## 新緑の季節、学校も本格的に始動です。

満開の桜の花に迎えられた入学式から早くも1ヵ月が過ぎました。4月の中頃には黄緑色の小さな葉っぱだった校庭の桜の木は、若葉色の新しい葉が風に揺れています。そんな5月の連休明け、私が体験した「若葉色のキラキラした」出来事をお話したいと思います。

給食の時間に本館2階西側の手洗いを通りかかった時、1人の児童が手を洗っていました。手洗い向かい側の男子トイレの「スリッパが揃っているか」が気になったので覗いてみると、案の定スリッパが脱ぎ散らかった状態でした。私が手を伸ばして揃えようと屈んだ時、私の後ろから小さな手が伸びてきてスリッパを揃え始めてくれました。すぐに「ありがとう。」と感謝の気持ちを伝えたのですが、感謝の気持ち以上に違った喜びを感じました。「トイレのスリッパを揃える」ことについては、私自身が「良い癖」になればとこれまでも心がけていました。その「心がけ」の思いと「手伝ってくれた児童」の思いが“共感”したことで、“喜びが生まれた”のでした。自分にとっては何とも言いがたい新しい喜びであり、まさに「若葉色のキラキラした体験」になりました。

さて、この体験に“味を占めた”わけではないですが、もう一つの「心がけ」の話です。

五位堂小学校への赴任時の引継ぎ事項の1つに「学校周辺のゴミ拾い（特にたばこの吸い殻）」がありました。「学習する場は神聖なところだ。担任は“場を清める”という心で教室はいつもきれいにしておくこと。」と教師に成り立てのころの校長先生に、徹底してこのことを教え込まれたせいか、「ゴミ拾いは続けない」と思い今日に至っています。そこで、子どもたちの様子を見守ることと兼ねて、1日3回ある休み時間のどこか1回はバケツと火ばさみを持って“ゴミ拾い”をすることにしました。「校長先生、何してるの？」と声をかけてくれることをきっかけに、「ゴミ拾い。きれいになると気持ちいいから。」と理由を伝えながら、子どもたちとコミュニケーションを取る場にしています。これについても、早速興味を示してくれた児童が私について歩いてくれながら「こっちこっち、ここにゴミがあるよ」や「火ばさみ貸して。やってみる。」と言ってくれます。“共感する喜び”を感じることができます。

コロナ禍と言われて2年、右を見ても左を見ても「制限されること」ばかりが目立ってしまい、「何もない学校生活」のように感じてしまいがちです。しかし、上でも話したように至って単純でしかも制限にとらわれない取組はあるものです。また、新たな感覚として“共感する”ということをつけ加えることで、悶々とした気持ちをすっきりさせることができるのではないのでしょうか。

この2つの取組は私自身今後も続けていきます。今回の“校長室だより”から何かヒントを得て、新たな取組みが生まれてくれることを願っています。